

「サナギから羽化へ(8)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

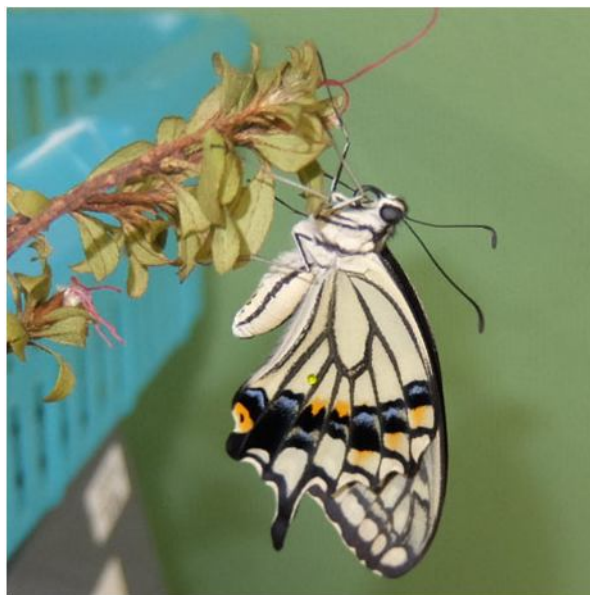
アゲハの羽化は、実に感動的だ。硬い殻に包まれて、ほとんど動くこともないサナギから、わずか5分ほどで美しいチョウが誕生する。およそ自然界の生物の変化の中で、これほど劇的な現象を、私は思いつかない。子どもたちも、この大変身をいつまでも囲んでいた。



脚が出てきた。通常なら木の枝や葉につかまる。手がかりを作っておけばよかった。

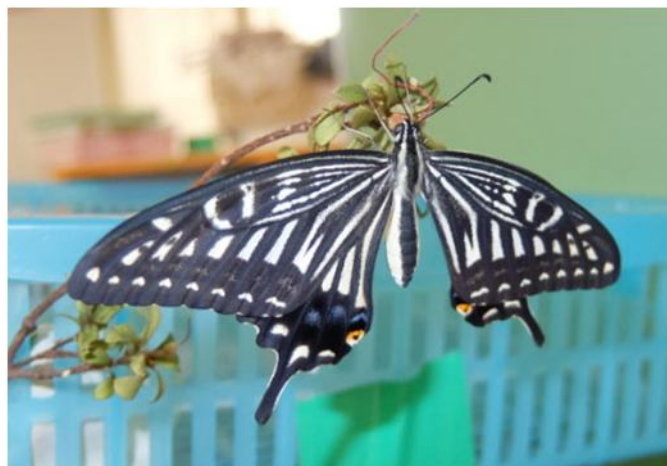


その後、器用にバックして、セロテープの縁につかまった。しがみつく力は、非常に強い。



展翅が少し心配だったので、サツキの枝に移した。この時に決して翅には触らないようにする。枝をそばに置き、自力で移動させる。2時間もするとすっかり展翅し、翅の文様もはっきりしてくる。しかし、まだしばらくは飛ぼうとはしない。この状態の時、アゲハの成虫を最も近くで観察できるチャンスである。

写真のように翅を閉じている状態では、「翅の裏側」を見ていることになる。時々、ストローのような口(口吻)を延ばすこともある。チョウの特徴である、「こん棒状の触角」の先端もよく観察させたい。



更に1~2時間ほどで、翅を大きく開き、ゆっくり開閉を繰り返す。しかし、決して無理に飛び立たせようとはしないほうが良い。飛べそうでも飛べず、地面に落ちてしまうこともあるのだ。開閉速度が速くなると、いよいよ飛ぶ一瞬が近いので、自力で飛ぶのを待った方が良い。やがて、教室の中を優雅に飛び回るようになる。天井の蛍光灯を目指すので、しばらく飛ぶ姿を観察したあと、蛍光灯を消して天窓を開けると、自分から外に出てゆく。子どもたちも手を振って見送る。